〔增補下學集上二支體〕眸ヒトミ

〔類聚名義抄二目〕睛音淨、不悅視、ヒトミ　和生　マナコ

〔增補下學集上二支體〕眼睛グンセイ

〔身體和名集保〕ホトケ　瞳仁

〔和漢三才圖會十二支體略〕目○中

眸音謀ヒトミ　瞳子也、和名比止美　骨之精爲瞳子、主腎、筋之精爲黑眼、主肝、血之精爲絡、主心、其窠氣之精爲白眼、主肺、肌肉之精爲約束、主脾胃、約束郎目瞼也

〔日本書紀十四雄略〕七年七月丙子、天皇詔少子部連螺贏曰、朕欲見三諸岳神之形、○中略乃登三諸岳、捉取大蛇、奉示天皇、天皇不齋戒、其雷虺虺、目精赫赫、カミヒカリヒロノキマナコカヾヤク天皇畏蔽目不見、却入殿中、

〔日本後紀十平城〕大同三年十二月甲子、東山道觀察使正四位下兼行右衞士督陸奥出羽按察使臣藤原朝臣緒嗣言、○中略奥郡庶民出走數度、儻乘隙作梗、何以支擬、臣生年未幾、眼精稍暗、復患脚氣、發動無期、此病歲積、兼乏韜略、○下略

〔三代實錄二十清和五〕貞觀十六年三月廿三日壬午、是日詔於貞觀寺、設大齋會、以賀道場新成也、○中略凡厥莊嚴幡蓋灌頂等之飾、微妙希有奪人目精、親王公卿百官畢集、

〔十訓抄三〕御堂關白○藤原道長物へおはしけるに、道に荷負馬の先に立たるに、小童の手に文をさゝげてよみけるを、あやしとおぼして、ちかくめしよせて御らんじければ、眼に重瞳有て、いみじく賢き相のゑたりければ、やがてめして、匡衡につけて、學問をせ、させられけるほどに、後には大江時棟とて、廣博才覽の文士なりければ、君に仕へて博士の道をつげり、養生の方をさへ傳て、壽考の人たりき、

〔諺草小言四〕近時一眼ヲ失スルモノ、珠ヲ以テコレヲ飾リ、明アルモノヽ如クスルアリ、哂フベキ

義眼